

新発売! からあげケン 徳島スダチ



鶏肉の中に細かく刻んだすだちの「皮」を入れ、すだちの「果汁」を加えた特製ダレに漬けた新フレーバーがローソンから登場します!

すだちのすがすがしい香りとさわやかな酸味、すだちの皮のわずかな苦味もアクセントとして効き、さっぱりとした味わいが楽しめる一品。

発売日は12月13日。ぜひ買ってみてくださいね!

十二月 師走

クリスマスツリーが街を飾る季節になりましたね。

日本でのクリスマスツリーの歴史は、1680年、(↑ロシアのヨールカ)プロイセンの使節オイレンブルクが公館に初めて飾ったそうです。

その後、日本のクリスマス行事は、1928年の朝日新聞紙上で、「クリスマスは今や日本の年中行事となり、サンタクロースは立派に日本の子供のものに・・・」と書かれるほど定着していましたが、太平洋戦争中は当然の事ながら、影を潜めたそうです。

戦後すぐに復活し、1948年には東京駅などのクリスマスツリーが、(当時は国営鉄道であったため)宗教活動ではないかと問題にされ、運輸省が「季節的な装飾のひとつで宗教活動ではない」と釈明するほど悶着あったそうですが、現代の日本においては季節的な装飾として定着していますね。

ロシアでは年末年始に、クリスマスツリーとよく似ている「ヨールカ」という飾りを準備するそうです。日本の門松のような役割ですね。

去る年を惜しみ、来る年を歓迎する、年末年初行事を大切にしたいですね。



I'm Professional.



ロータス林のわくわく通信

6.17 国道店 OPEN



23年11月30日発行

イヴに向けて 彼氏像を下げろ (案外いい人に巡り合えるかも?)

友達を デイナリーに誘う 返事なし (勇気振ったのに...)

縁がない サンタにコメント シングルベル (うちもその部類)

大掃除 はかどらないまま (今年もかよっ!)

やなクリスマス (むりな過ぎす)

今月の川柳

アザラシライブ

新屋島水族館のゼニガタアザラシの水海(みう)ちゃんは、季節毎にキュートなコスプレで器用に芸を披露し、観客を楽しませてくれているそうです。

- みうちゃんのコスプレは
- ① 節分 (棒もってるよ~)
 - ② 入学式 (桜とカバンが可愛い)
 - ③ 月ウサギ (長いお耳がかわい~い)
 - ④ ハロウィン (マントととんがり帽子で立ってる~)
 - ⑤ クリスマス

どれも、ツールを持って立っているのがすごいですよね~。平日は昼 11:40~12:30、土・日祝日は 13:15~14:05 開催。ぜひ観に行きたいですね。



世界はクルマで変えられる。 Mobility can change the world. The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011 一般公開: 12月3日[土]→11日[日] 会場: 東京ビッグサイト

今回のテーマは、「世界はクルマで変えられる。」 "Mobility can change the world." 世界12ヶ国・1地域から合計176の出展者が参加。スズキからは、Q-concept、ホンダからは、バイクとはとても思えない持ち運び自由の motor compo や、3人乗り小型EV (タイヤがついてない?)。サービスロボットメーカーのテムザックは、次世代型電気自動車型パーソナルビークルのコンセプトモデル「KOBOT」を出展、可愛いですよ~。おもちゃのトミーからは、カーズ・トミカ (マッハマツオ) や、トランスフォーマー・ネオスキャンピングのバンブルビーを展示、今回初めて住宅メーカーの積水ハウスが、環境配慮型住宅「グリーンファースト」で、EVとスマートハウスの関係を提案するそうです。果たしてどんな次世代Carが出るか、楽しみですね。



★ロンドンで最新ファッション★



ロンドンのホテルにて

ロンドンのホテルから出るところを目撃されたレディー・ガガの最新ファッションだそうです。四歳で楽譜なしでピアノが演奏できるようになり、十三歳になる頃には初のピアノ・バラードを作曲。十一歳の時にジュリアード学院の音楽部門に合格し、十四歳からニューヨークのクラブでパフォーマンスを開始。十七歳でこれまで世界で二十人しか早期入学が許されていないニューヨークにあるティッシュ・スクール・オブ・アートに入学した、「類稀な存在」「ダイヤモンドの原石」と言われている才女。彼女は、経歴を通して、これまでいくつもの慈善団体に関与しました。ハイチの地震被害者のために、エイズ撲滅のために、そして東日本大震災の被害者のために...素晴らしいアーティストですね。奇抜なファッションで意表を突くガガさんですが、これからはますます私たちを驚かせていただきたいですね。



先日、国民総幸福度指数世界ナンバーワンであるブータン王国のワンチュク国王と、ジェツン・ペマ王妃ご夫妻が来日なさいました。

ブータン王国は「幸福の国」また「祈りの国」と言われていますが、会う人会う人に手を合わせる慈悲深いお姿に、日本人の誰もが好感を持ったのではないのでしょうか? 白水社出版の「幸福立国ブータン」によると、ブータンの人は、お茶にハエが入ったら、「大丈夫?」と聞き、その意味は「お茶を飲んで大丈夫か?」という事ではなく、「ハエは大丈夫か?」と聞き、すぐさまハエを救出しなさいのだとか...。また、美しい花に恵まれた国土ですが、花屋はないそうです。なぜなら、一生懸命に咲く花を切り取って売買するのはチベット仏教にそぐわないと思うらしく、寺院に飾る花も造花だそうです。ブータンは、国旗にも龍があらわれているのを見ても明らかに「龍の地」として知られていて、東日本大震災で被災した福島県相馬市を訪れたワンチュク王が、子どもたちに「君たちは龍を見たことがあるか?」とお尋ねになり、国王陛下は「龍は一人ひとりの心のなかにいます。一人ひとりの龍を大切に育てて欲しい」と子どもたちにメッセージを送ったのには感動しました。

ブータン王国



先日、国民総幸福度指数世界ナンバーワンであるブータン王国のワンチュク国王と、ジェツン・ペマ王妃ご夫妻が来日なさいました。

